

# Biz 茶

CHA

ビジネスの現場で  
活きる茶の心

06

## 和敬清寂に学ぶ、 リーダーのあり方

一般社団法人  
茶道裏千家淡交会理事  
株式会社淡交社  
代表取締役社長

伊住 宗陽



茶道の精神を象徴する言葉に「和敬清寂」

があります。これは茶の湯の本質を表す四つの理念であり、現代の組織を率いるリーダーにとっても、多くの示唆を与えてくれます。

まず「和」とは、調和を重んじる心です。組織は多様な価値観を持つ人々の集まりであり、それぞれの意見に耳を傾けながら、全体としての方向性を見出ししていくことが求められます。対立を避けることではなく、違いを受け止め、より良い関係へと昇華させる力こそが「和」の本質といえるでしょう。次に「敬」。それは相手の存在を尊び、真摯に向き合う姿勢です。茶席では、亭主は客のために心を尽くし、客もまた亭主のもてなしに敬意をもって応えます。この相互の敬意が、場に適度な緊張感と安心感をもたらします。ビジネスにおいても同様に、

立場を超えて敬意を払うことが、揺るぎない信頼関係の礎となります。

「清」は、心を澄ませ、私心にとらわれないことを意味します。日々の意思決定において、短期的な利益や感情に流されるのではなく、何が組織にとって最善かを見極める。そのためには、常に自らの心を整えておくことが欠かせません。清らかな判断は、組織に透明性をもたらし、人を安心して前へ進ませます。



そして「寂」は、どのような状況でも動かない静かな強さです。茶室の静寂は単なる無音ではなく、あらゆる物事を受け止める余白を意味します。予期せぬ出来事や困難に直面したときこそ、慌てず騒がず、本質を見極める。その落ち着きが、組織を導く確かな力となります。

「和敬清寂」は、特別な場だけに生きる教えではありません。日々の対話の中で調和を意識し、人を敬い、心を澄ませ、静かに判断する。

その積み重ねが、リーダーとしての器を形づくっていきます。

変化の激しい時代だからこそ、外に答えを求めただけでなく、自らの内に静けさを持つこと。茶道の精神は、ぶれない軸を持つリーダーのあり方を、今もなお私たちに問いかけているのではないでしょうか。